

一般質問(要旨)

第2回定例会の主な日程

平成22年第2回定例会県議会は、以下の会期日程で開催されました。

- 6月3日(木) **本会議** (開会・知事提出議案説明)
- 6月8日(火) **本会議** (一般質問・質疑)
- 6月9日(水) **本会議** (一般質問・質疑)
- 6月10日(木) **常任委員会** (6月11日(金))
- 6月14日(月) **県出資団体等調査特別委員会**
- 6月16日(水) **本会議** (委員長報告、採決、閉会)

県住宅供給公社解散の具体的方向は

第三回定例会には解散関連議案を提出したい

飯岡英之議員(自由民主党)
県住宅供給公社の解散について、具体的な計画がいまだに示されていない。県民の負担を可能な限り少なくするような方策に取り組みべきと考える。公社解散の具体的な方向付けはどうか。

知事 県が損失補償している公社借入金については、最終的には県が負担せざるをえないため、第三セクター等改革推進債の活用が必要と考えており、現在、国や金融機関との協議を続けている。今後も、できる限り資産売却などに努めるとともに、解散に向けた手続きなどをさらに急ぎ、第三回定例会には公社解散に向けた関連議案を提出したい。

議員 TX沿線開発区域の一つである上河原崎・中西地区に、スマートICが設置され、圏央

道に直接アクセスできれば、交通利便性は一層高まり、つくば市全体、さらには周辺地域の発展に大きく貢献する。スマートIC設置に向けた取り組みと今後の見通しについて伺う。

企画部長 国やつくば市と調査・研究を進めてきたが、今年三月に、本線直結型スマートICの設置を目指すとの方向性をとりまとめた。今後は、市が主体となった検討会で、県も参画しながら検討を進め、実現に向けて積極的に取り組んでいく。

議員 茨城空港の就航路線が安定的に運航されていくためには、一年を通して搭乗客を確保できる状況をつくらなければならぬ。経済発展が著しい中国などからの観光客を呼び込むことで、地域の活性化や路線拡大につなげるよう、国際観光に積極的に取り組むべきと考えるが。

- 質問者
- 飯岡 英之 (自由民主党)
 - 西野 一 (自由民主党)
 - 伊沢 勝徳 (自由民主党)
 - 小林 靖男 (自由民主党)
 - 佐藤 光雄 (自由民主党)
 - 森田 悦男 (自由民主党)

今後の県北地域振興は 県政の最重要課題として発展を図る

西野 一議員(自由民主党)
県北地域は少子高齢化、人口減少が著しく、働く場の確保などの「産業の活性化」や「交流の拡大」、道路など「基盤インフラの整備」が重要である。その上で、地域づくりのリーダーとなる人材の育成と戦略的な広報が不可欠である。今後の県北地域振興の取り組みについて伺う。

知事 県北地域の振興を県政の最重要課題の一つとして捉え、あらゆる手段を講じて、地域の発展を図る。企業誘致の推進、

教育旅行の拡大や周遊観光を促進し、観光産業の振興を図る。さらに、首都圏を中心に戦略的な情報の発信を行う。常陸太田の「まいづる塾」などの動きと行政が協調しながら、人材を育成することが必要と考える。

議員 イノシシによる農作物被害が急増している。イノシシ肉を地域の特産物として活用できれば、農作物被害の低減と地域振興に役立つ可能性もある。イノシシの駆除推進と食肉としての有効活用について伺う。

農林水産部長 駆除推進については、捕獲わなに対する助成などを行うほか、捕獲目標頭数を拡大した。イノシシ肉の活用については、採算がとれるイノシシ頭数の確保などが課題となっている。先進事例調査など活用に向けた取り組みを行っていく。

議員 現在子どもたちが社会性を身につける機会が少ない。茨城東高校では、全校生徒がトイレ掃除を行うことで生徒の社会への取り組み方が変わったとのこと。このような体験活動の推進が重要と考えるが、所見は。

教育長 各学校においてコミュニケーション能力などを育む様々な取り組みを実施してい

る。今後は、学校行事への地域住民の参加や地域行事への子供の参加など異世代交流を増やし、体験活動を一層充実させ、豊かな心を育む教育の推進に努める。(ほかに、交流の拡大による県北地域の振興、県北地域における森林・林業の再生、下水道汚泥などの有効活用なども質問)



田植えを体験する首都圏の高校生

新たな県総合計画の策定方針は「生活大県」の実現を目指す

伊沢勝徳議員(自由民主党)
本県が引き続き活力を維持していくためには、夢と希望と誇りが持てる将来展望を示し、県民とともに力を合わせその実現を図る方針を定めるべきである。新しい茨城県総合計画の策定に、どのような考えで取り組むのか。

知事 広域交通網を活用し、より一層企業誘致や産業振興に努め、その活力を生かして県民が安心、安全、快適に暮らせる「生活大県」の実現を目指すことが重要と考える。「住みよいいばらき」「人が輝くいばらき」「活力あるいばらき」づくりを進めるとともに、最先端の科学技術などを活用し、日本が世界の中の一翼を担える県にしたい。

議員 高齢者の豊富な知識や人生経験は地域社会の財産であり、それらを還元できるような、高齢者が活躍できる場所の整備が大切である。その一つとして元氣シニアバンク[※]を充実すべきと考えるが今後どのように取り組んでいくのか。

保健福祉部長 利用者の期待に応えるためには、一定の水準を保ちつつバンク登録者数を増やすことが課題。広報紙などによる周知のほか、市町村の生涯学習指導者登録制度などと連携を図り、事業の拡大に努めたい。

議員 視覚障害者の声は行政に届いているのか。課題を洗い出し、ともに解決方法を探るべき。県の視覚障害者支援策を伺う。

保健福祉部長 視覚障害者と

りまく様々な生活課題について調査・検討し、解決に向けて取り組む。今年度は、より充実した料理実習のため設備の整っている民間の料理学校を活用するほか、県立視覚障害者福祉センターの録音図書のCD化を進め、訓練スペースを確保するなど、利便性の向上を図る。(ほかに、男女共同参画基本計画の達成状況と今後の策定方針、新たな茨城農業改革大綱の策定、都市計画道路土浦新治線並びに国道354号土浦バイパスの整備見直しなどについても質問)



県住宅供給公社

ら、今後は、学校行事への地域住民の参加や地域行事への子供の参加など異世代交流を増やし、体験活動を一層充実させ、豊かな心を育む教育の推進に努める。(ほかに、交流の拡大による県北地域の振興、県北地域における森林・林業の再生、下水道汚泥などの有効活用なども質問)

ら、今後は、学校行事への地域住民の参加や地域行事への子供の参加など異世代交流を増やし、体験活動を一層充実させ、豊かな心を育む教育の推進に努める。(ほかに、交流の拡大による県北地域の振興、県北地域における森林・林業の再生、下水道汚泥などの有効活用なども質問)



生活大県の実現へ

ことば ※【第三セクター等改革推進債】…第三セクター、地方公社及び公営企業の抜本改革のため、平成21～25年度の間、特例的に発行できる地方債。
※【元氣シニアバンク】…長年培ってきた豊富な知識、経験、技能を持つ高齢者をシニアマスターとして登録し、様々な地域活動に生かしてもらうことを目的とした高齢者人材バンク。